

ネットワーク社会におけるコミュニケーション

国際教養大学
前中 ひろみ

2013年9月13日

目次

1. コミュニケーションとは？
2. コミュニケーションの目的
3. コミュニケーションの手段
4. ネットワーク社会の進展
5. ソーシャルネットワーキングの普及
6. コミュニケーション行動の変化と課題
7. まとめ

コミュニケーションの基礎概念

コミュニケーションとは？

- 語源：「伝えて共有すること」
- 日常的には「何事かを伝える」、「意思疎通ができる」、「関係がうまくいく」
- 学術用語としては多義的で広範な研究対象領域を有する。

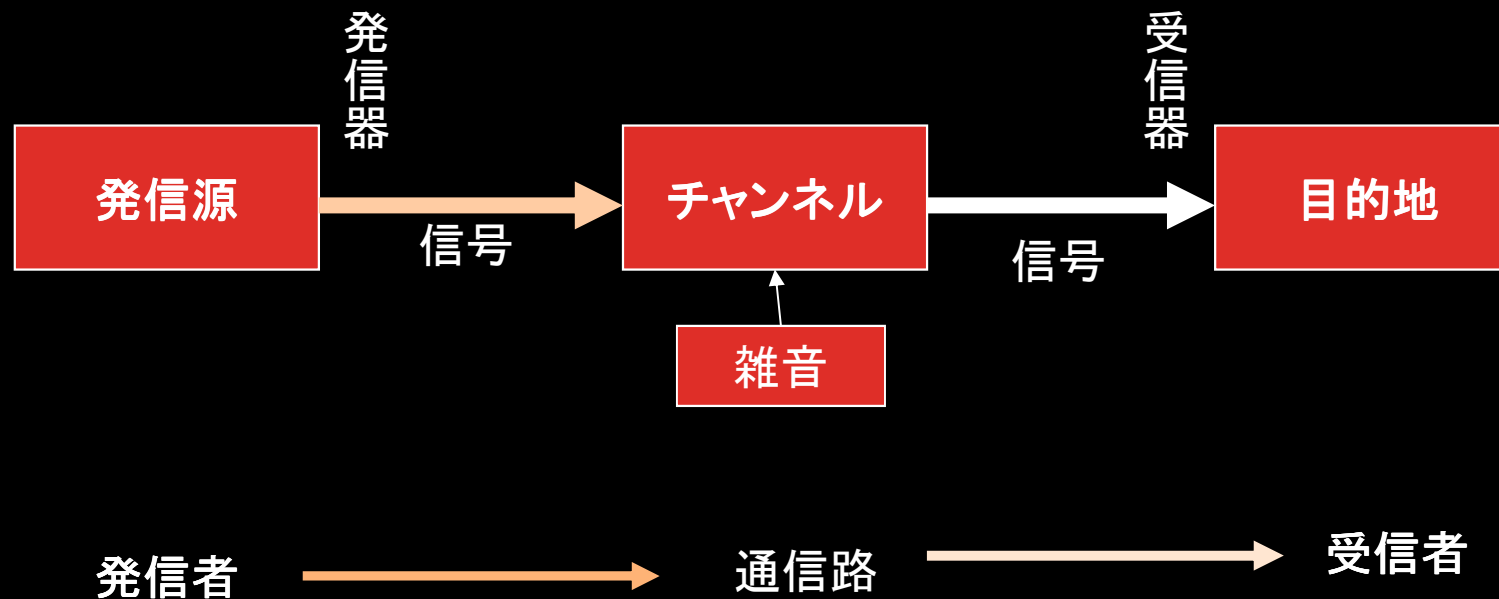
コミュニケーション学の領域

社会学、メディア論、言語学、社会心理学、臨床心理学、
精神病理学、文化人類学、等

(2) コミュニケーションモデルー1

4

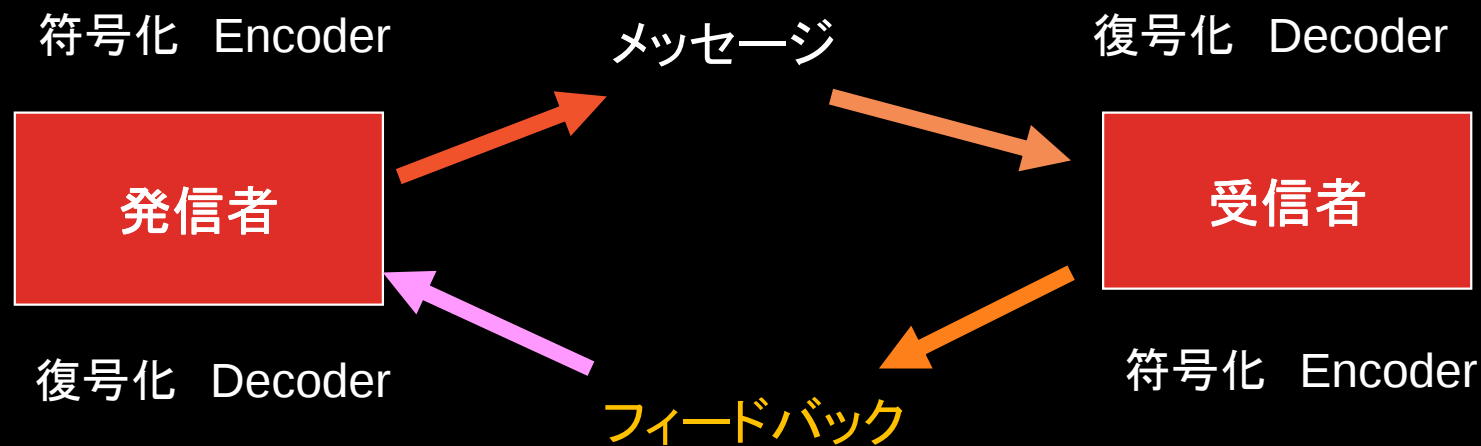
Shannon & Weaver(1949)



単純で応用範囲が広い。
一次元的、平面的
メッセージの意味は考慮されていない
発信者と受信者の関係が一方的

(2) コミュニケーションモデルー2

Wilbur Schramm (1955)

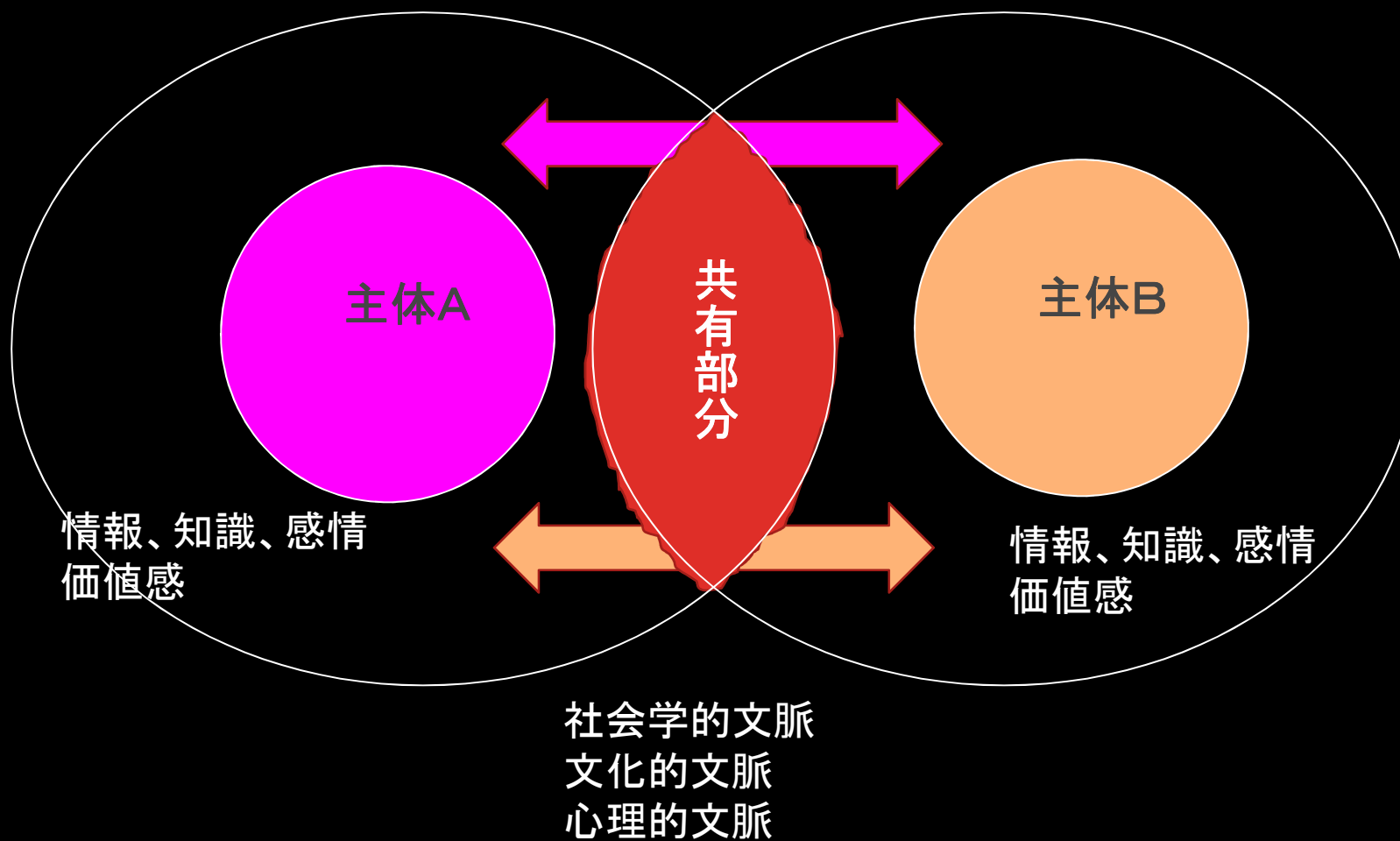


Direct/Indirect
Verbal/Nonverbal
Intentional/Unintentional

(2) コミュニケーションモデルー3

6

コミュニケーション＝伝えて共有すること



コミュニケーションの目的

人間は何のためにコミュニケーションするか？

1. 楽しむ。
2. 情報を得る。
3. 情報を伝える。
4. 相手に影響を与える。
5. 対人関係を形成し、発展させ、維持する。
6. 課題を解決する。

深田博己(1998)「インターパーソナルコミュニケーションー対人コミュニケーションの心理学」

コミュニケーションの手段

1. 直接的(対面 face-to-face)
間接的(メディアを介した)
2. 意図的
非意図的
3. 言語コミュニケーション
準・非言語コミュニケーション

準・非言語コミュニケーションの種類と重要性

準言語: 音の長短、強弱、抑揚、発話速度

非言語: ???

表情、視線、身ぶり、姿勢、身体的接触、身だしなみ、空間(対人距離)、背景(場所、音、配置)など。

- 第一印象の65%は非言語で
- 人間関係に及ぼす影響大
- 言語、準言語、非言語の一致と不一致

コミュニケーション・メディアの発達

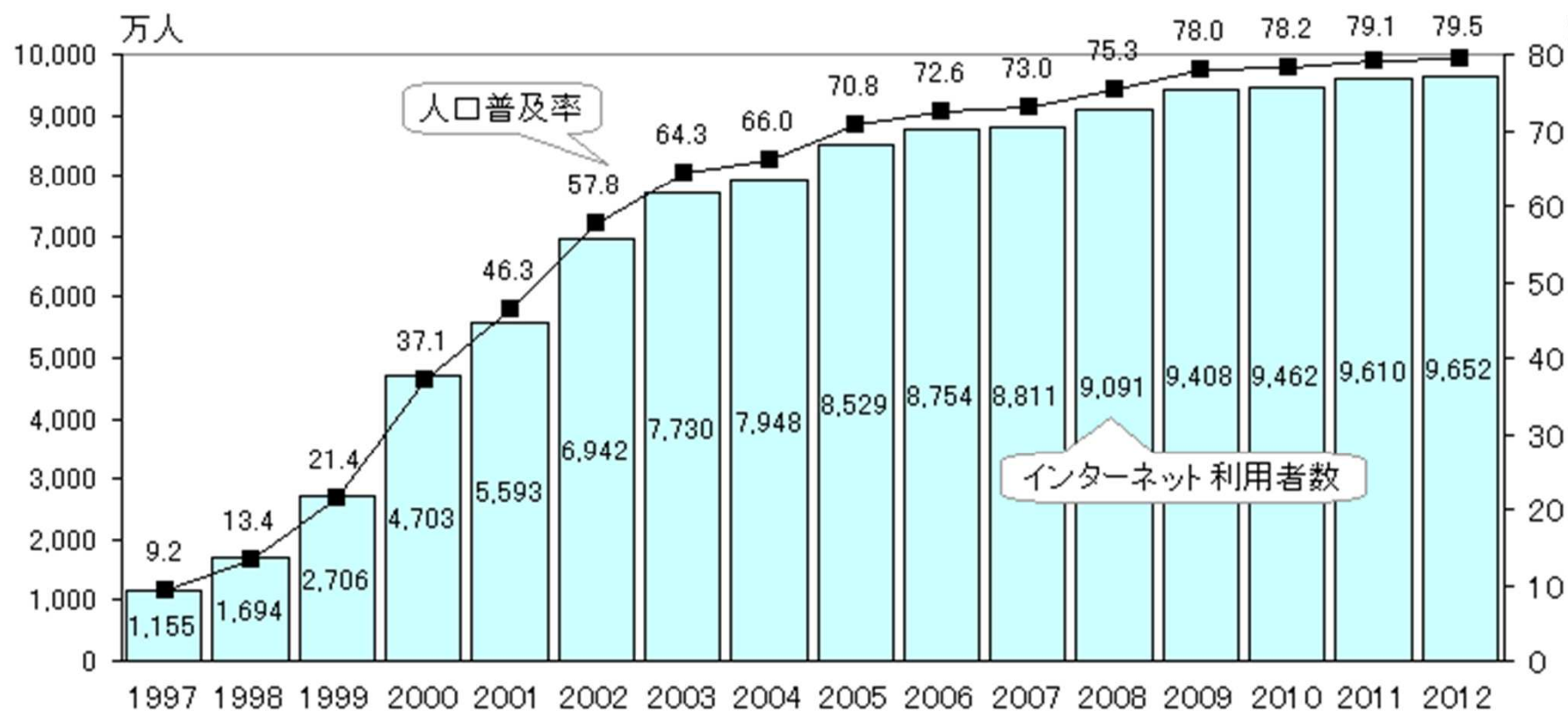


インターネットの普及

11

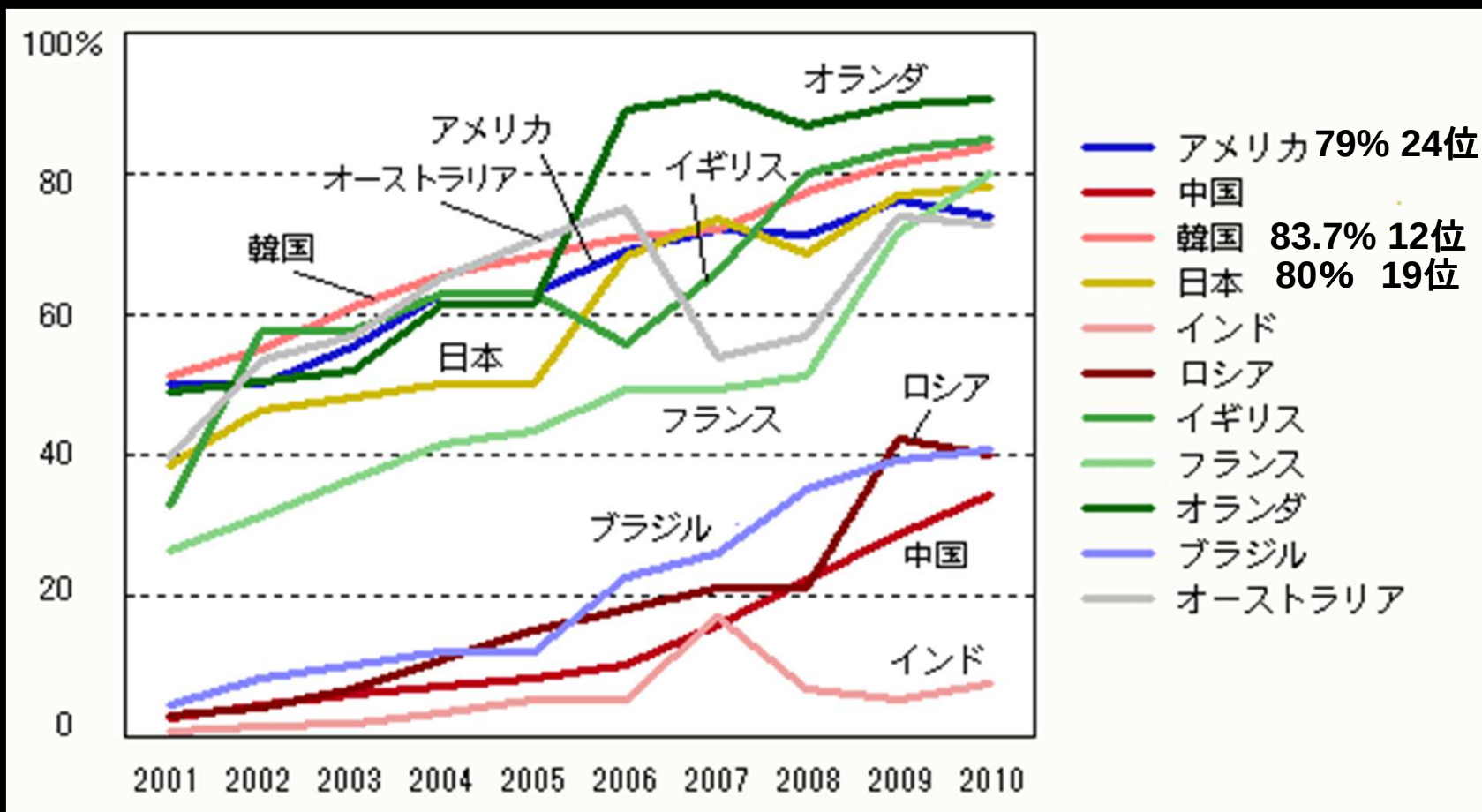
インターネットの利用者数及び人口普及率の推移

インターネット利用者数・人口普及率

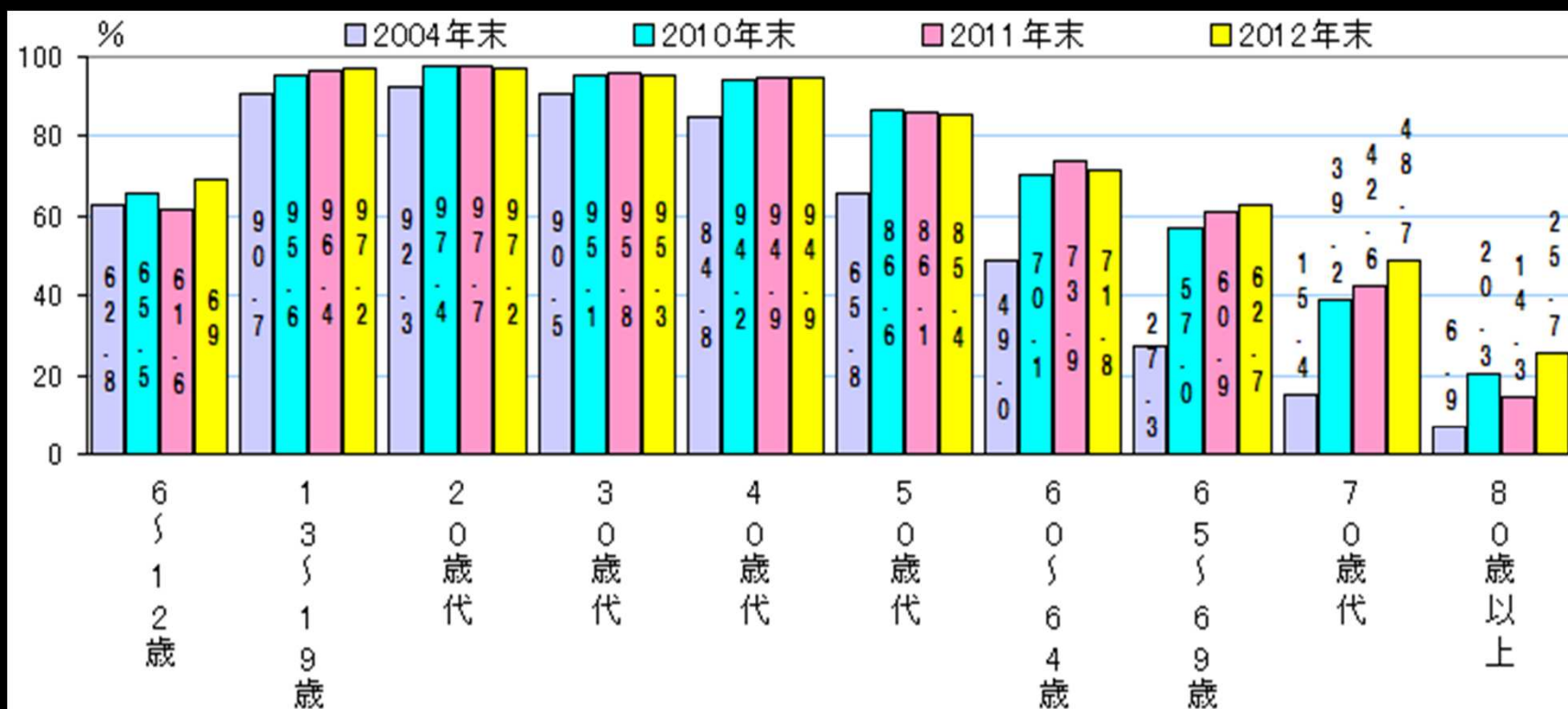


総務省「平成24年通信利用動向調査」

インターネットの国別普及率



年令別インターネットの普及率



(資料) 総務省「通信利用動向調査」

インターネット利用実態

インターネット情報の目的別利用率

PC: 「娯楽的なサイトを見る」(77. 5%)

「旅行の情報や予約」(66. 4%)

「ニュース」(60. 3%)

「掲示板やニュースグループ」(17. 1%)

携帯: 「音楽のダウンロード」(52. 4%)

「娯楽的なサイトを見る」(38. 6%)

「掲示板やニュースグループ」(4. 3%)

インターネットの利用動向に関する実態調査報告書2003(情報通信総合研究所2004)

PC/携帯電話の普及は我々のコミュニケーション行動をいかに変えたか？

- 時間と距離の制約からの解放
- コミュニケーションにかかる費用の減少
- 発信者と受信者の無限の広がり
- 人的ネットワークの多様なカスタマイズと再編
- 能動性の実現
- 情報過多とリテラシー
- コミュニケーションの断片化
- コミュニケーションメディアの身体化
- メディア依存症

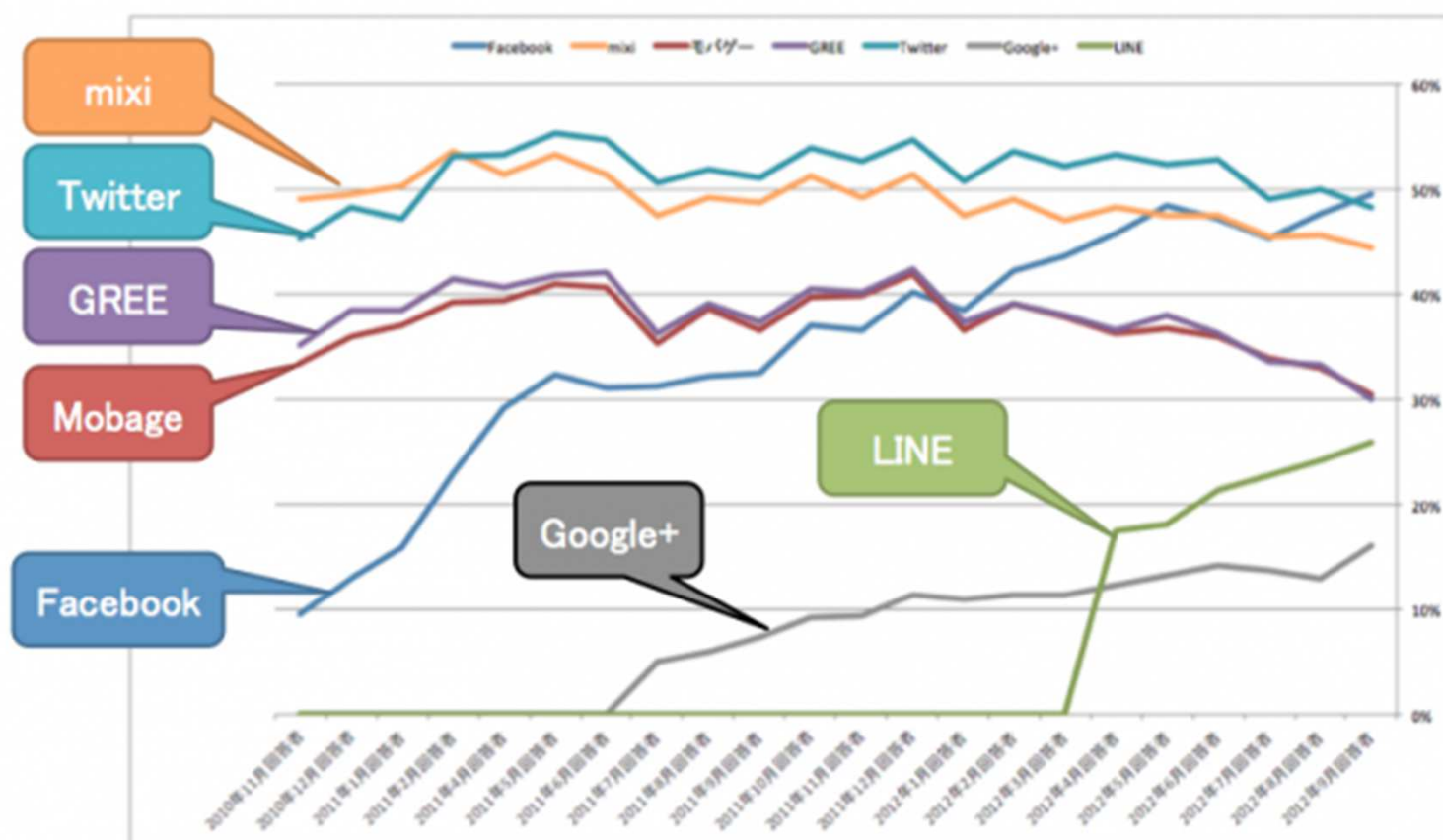
ソーシャルネットワーキングの普及



SNS認知度

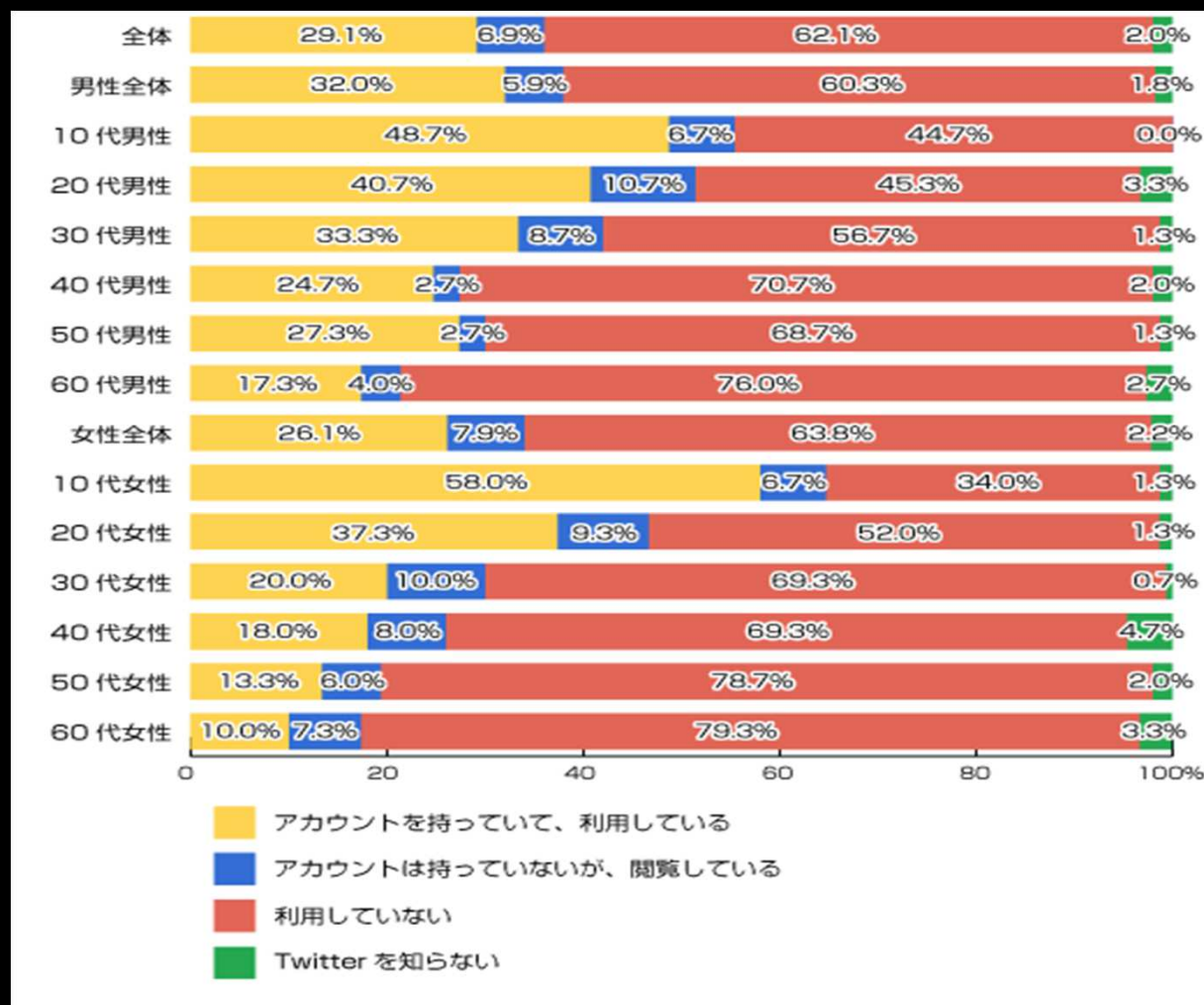
サービス内容を知っている人の割合

loops



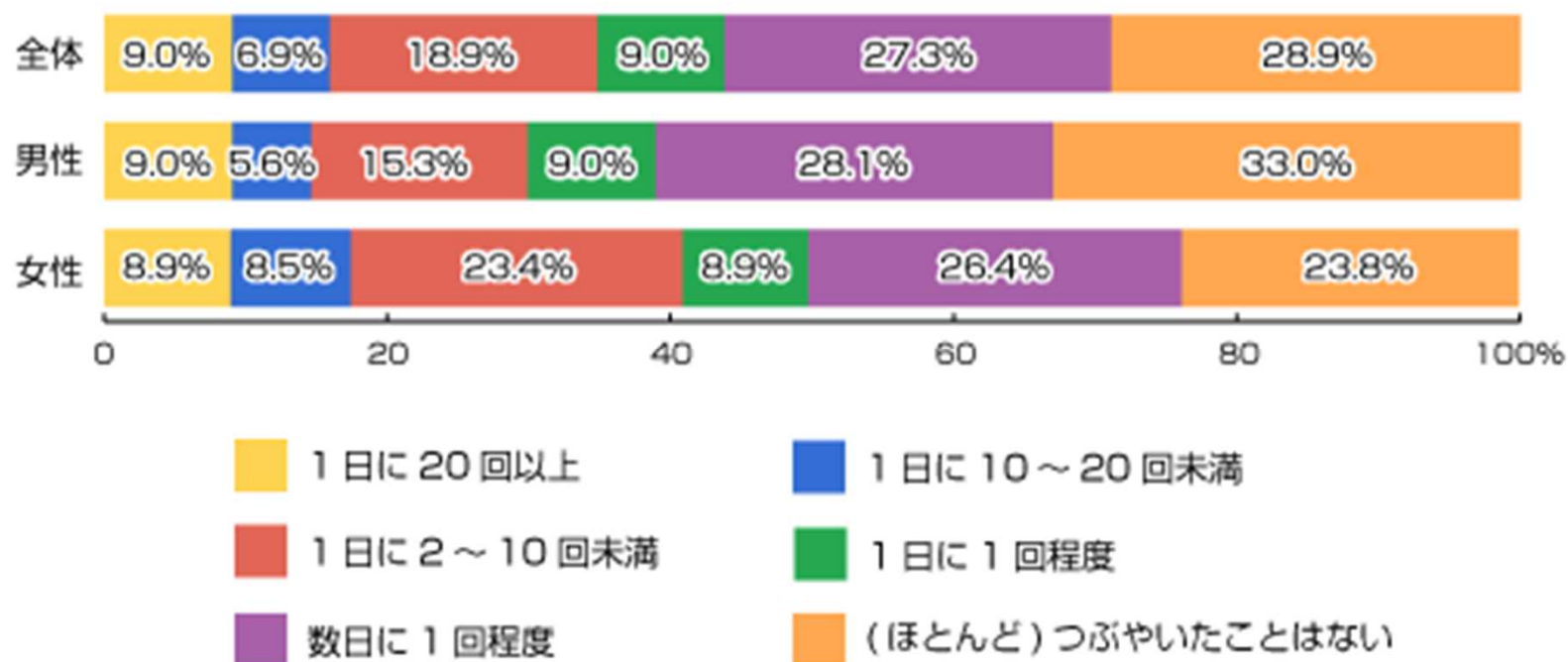
ツイッターの利用(性別・年代別)

N=1,800

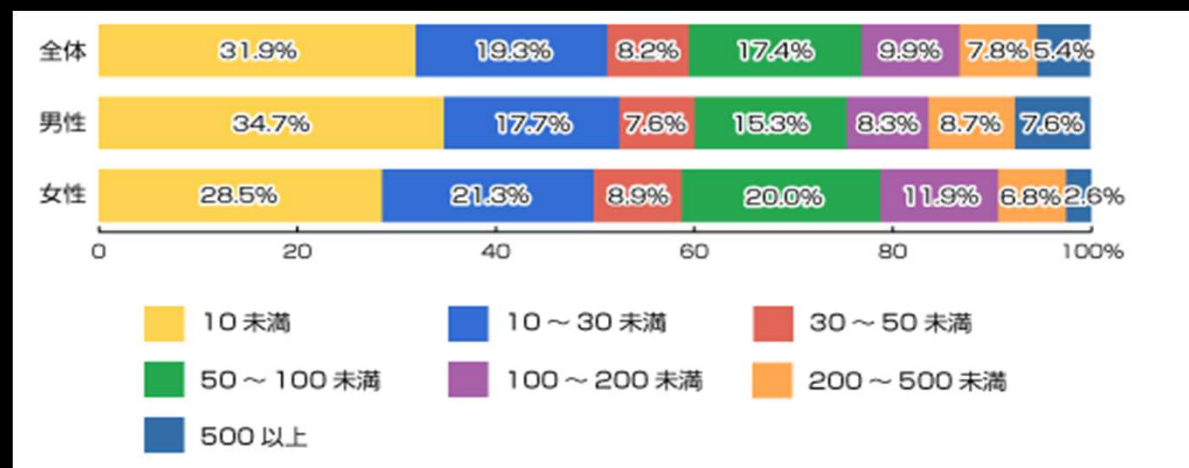


つぶやきの頻度

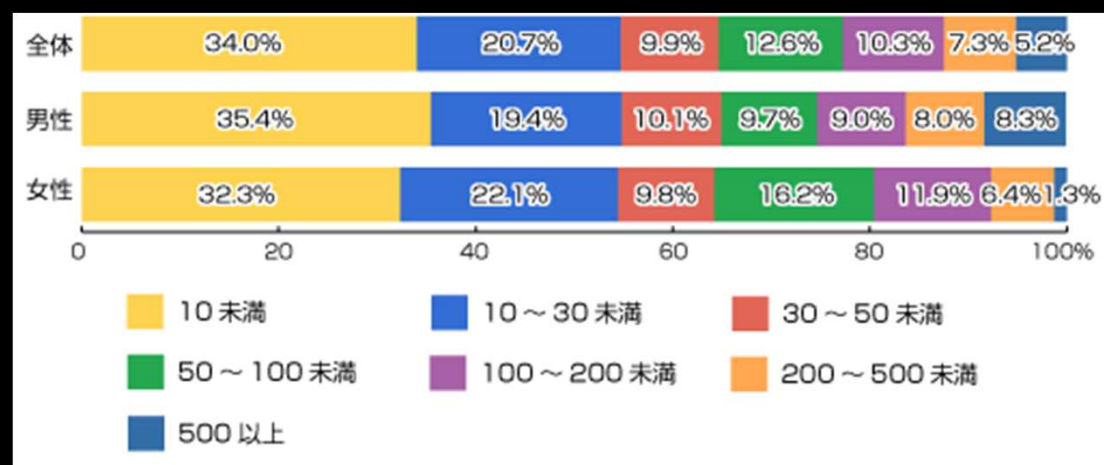
N=523人



フォロワー数

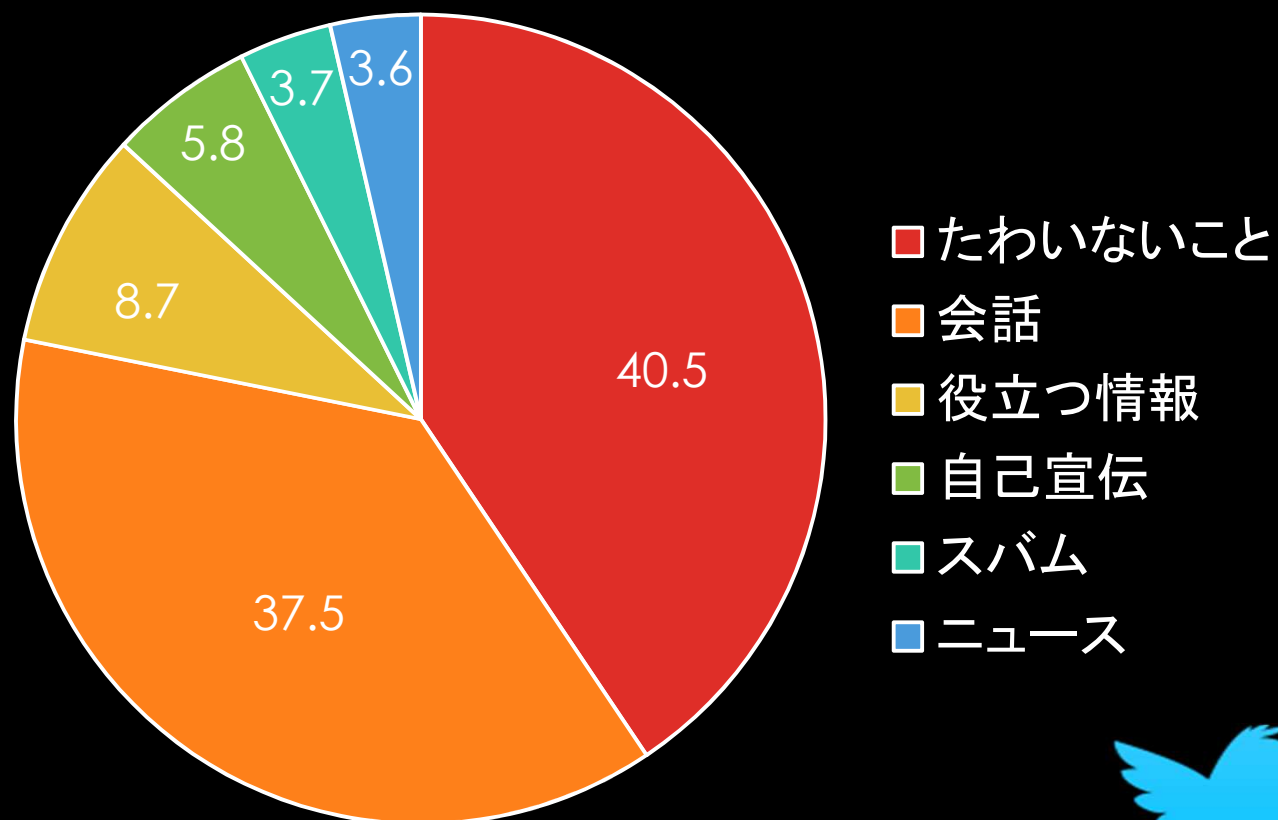


フォロワー数



何についてつぶやいているのか？

つぶやきの内容



SNSとコミュニケーション行動

1) 親しい人(家族や友人)との絆の強化・活性化
いつでもどこでも連絡が取れる安心感

2) 私生活志向を高める。

コミュニケーションが同質性の高い親しい人に偏る。

異質な他者との接触の機会の低下

社会的な利害の調整や問題解決が困難。

社会・政治領域への参加を妨げる。

小林哲郎・池田謙一(2005)

ネット依存症

- 気になることや心配事などすぐに誰かに相談したりネットで解決法を入手しようとするため自分でよく考えなくなる。
- 簡略なメッセージでことが足りるため、論理的文章を書いたり、話したりすることができない。
- メールのやりとりにおいて早急なフィードバックを求め、待つことができなくなる。
- 豊かな対面コミュニケーション力ができなくなる。
- 四六時中画面に向かっている。

SNS は便利、でも・・・

肉体的、心理的名疲労や孤独感

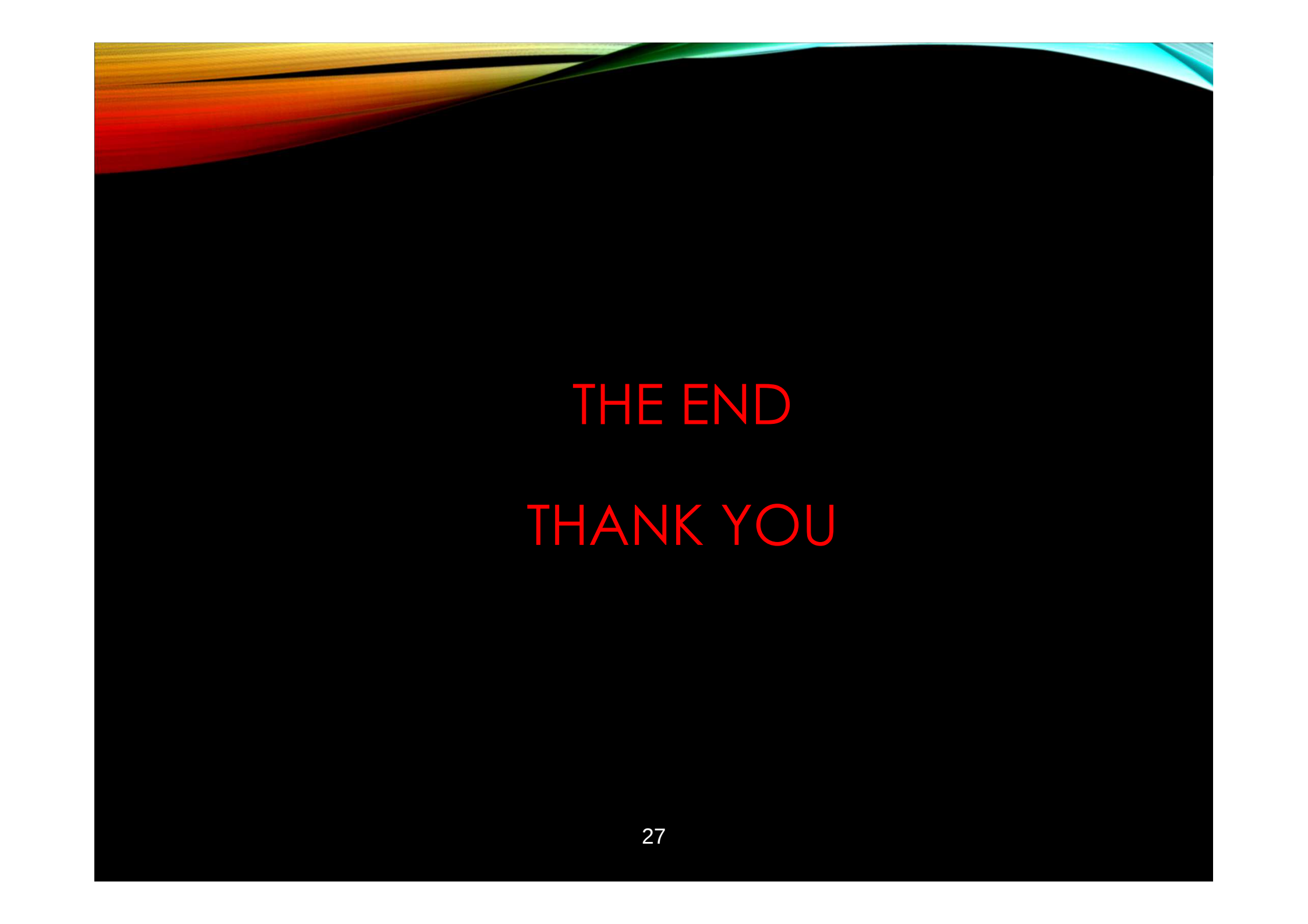
ソーシャル疲れ

ソーシャル疲れに陥りやすい人

- 自分を他人と比較しがち
- SNSに書き込んだことが気になる
- SNS上の友達の数にきにする
- 友達から反応があるようなことを書き込む

結論

- コミュニケーション行動は人間の基本的な活動
- 急激なコミュニケーション・メディアの発達はコミュニケーション行動に大きな影響を与えつつある。
- 理論の構築と実証研究の重要性の認識



THE END
THANK YOU